

そしてペペとスシは何か神経質だ。間違いの無いよう願っている。マラガを去る前にホテルの案内係にソフィアは今日出発するか尋ねた、案内係は彼等にソフィアは今朝同じように精算をしたと言った。凄く親切な行為だ。今やロメラレスに証明が欠けているのみだ、彼は凄く不愉快な顔をしている、何故なら飛行機の旅の苦痛に耐えられず、その上、ヘスス オネトの殺人事件には手がかり一つ無く、多くの対策も立てることもなくそのままでは事実だ。

3時ごろロメラレス、ペペとスシは警察の許可で国際線の待合ゾーン（制限区域）の中に入った。3時半頃ヒネブラ行771便搭乗の放送がされた。すぐに多くの人がパスポート検問を通過した。ソフィアは列の最後尾にいた。彼女のパスポートを示した。彼女のバックをメタル検査装置の上に置き、ドアを通りバックを取ろうとした時、ロメラレスの声を聞いた。

—お嬢さん、それを開けて下さい、その旅行鞆もね、私達はここで貴女の持ち物を調べなくてなりません。

ソフィアは驚いて開けた、ロメラレスは宝石、スカート、ドレス、下着と取り出した・・・これは、奥に有ったものを見つけ出した、鞆には100万ペセタが隠されていた。ソフィアはペペ レイを見た。

—貴方、ここで何をしているの？ 彼に質問をした。

—まるで小説のようだね、ソフィア、私はヘスス オネト殺しの犯罪人の一人を見つけたのだよ、彼は私の仲の良い友人の一人で優れた新聞記者だった。

—私はその殺人に全く関係はないのですよ。

—そう、お嬢さん、警察に直ちに行ってそのことは話して下さい。ここで逮捕します、ロメラレスは満足げに言った。